

## 平成 22 年度における環境モデル都市の取組評価基準

平成 22 年度における環境モデル都市の取組評価については、5つの指標でそれぞれ5段階評価を行い、レーダーチャートで表示することとしており、その評価基準は以下のとおりとする。

### 【A：取組の進捗】

取組の進捗状況結果（7月公表）を点数化し、以下の区分で評価する。

区分	基 準
5	取組を追加、前倒し又は深掘りし、計画以上に大きく取組が進捗しており、かつ、遅れのある取組や実施していない取組がない。
4	取組を追加、前倒し又は深掘りし、計画以上に取組が進捗している。
3	計画通り取組が進捗している。
2	計画より遅れている取組や予定量に達していない取組が多く、取組の進捗に遅れがある。
1	計画していた取組が実施できていないなど、取組の進捗に大きな遅れがある。

（評価指数算定方法）

- ① 取組を評価毎に点数化（＝評点×取組数）
- ② ①で得られた点数を取組数で除し、その割合を評価指数として算定
- ③ ②で得られた評価指数により、5～1の区分で評価  
但し、5の評価区分については、「c)遅れのある取組」や「d)実施していない取組」がないものであるため、評価指数が130以上であっても4の評価区分とします。

### 【算定例】

計 画 と の 比 較	評 点	取 組 数	点 数	区 分	評 価 指 数
a) 取組を追加／前倒し／深掘りして実施	2	13	26	5	130～
b) ほぼ計画通り	1	37	37	4	110～
c) 計画より遅れている	0	5	0	3	90～109
d) 取り組んでいない	-1	0	0	2	70～89
計		55	63	1	～69

- ①  $(2 \text{ 点} \times 13 \text{ 取組}) + (1 \text{ 点} \times 37 \text{ 取組}) + (0 \text{ 点} \times 5 \text{ 取組}) = 63 \text{ 点}$
- ②  $63 \text{ 点} / 55 \text{ 取組} \times 100 = 115 \text{ (四捨五入)}$
- ③ 110～に該当 ⇒ 「4」評価

### 【B：温室効果ガス削減・吸収量】

取組の実施による温室効果ガスの削減量及び吸収量と、アクションプランに掲げる削減目標の達成への寄与度を評価する。

区分	基準
5	特に大きな効果が発現しており、アクションプランに掲げる目標を大きく超え、又は前倒して達成することが見込まれる。
4	大きな効果が発現しており、アクションプランに掲げる目標を超えて達成することが見込まれる。
3	一定の効果が発現しており、アクションプランに掲げる目標を達成することが見込まれる。
2	効果があまり発現しておらず、アクションプランに掲げる目標を達成するために、取組の工夫・追加が必要である。
1	効果がほとんど発現しておらず、アクションプランに掲げる目標を達成するために、計画の大きな見直しが必要である。

※ 効果の発現はできるだけ定量的に表すとともに、取組数、事業費等を勘案し、効果の大小を判断するものとする。

※ アクションプランの達成見込みについては、進行中の取組の進捗率や、取組完了に伴う温室効果ガスの削減又は吸収量の期待度を数値化する等して、客観的に判断するものとする。

### 【C：地域活力の創出】

取組の実施により発現した、当該都市の持続的な発展に資する成果を評価する。

区分	基準
5	全国に先駆けたモデルとなる取組を実施し、地域活性化に資する大きな成果を創出した。
4	地域活性化に資する大きな成果を創出した。
3	地域活性化に資する一定の成果を創出した。
2	地域活性化に資する成果を次年度以降に創出する目途がついた。
1	地域活性化に資する成果の創出が全くない。

※ 全国に先駆けたモデルとなる取組とは、当該都市において発案等した取組を言い、先に他都市で同様の取組が実施されている取組は除く（以下、D・Eも同様。）。

※ 全国に先駆けたモデルとなる取組を実施し、地域活性化に資する成果が一定程度に留まっている場合は、4の区分に該当とする（以下、D・Eも同様。）。

※ 成果については、雇用、新規産業の創出等の経済的なものに限らず、環境教育等の実施により市民の環境意識の継続的な向上が望まれるもの等も対象とする。

※ 成果については、できるだけ定量的に表すとともに、各都市の人口規模、経済規模等を勘案し、成果の大小を判断するものとする（以下、D・Eも同様。）。

### 【D：地域のアイデア・市民力】

「地域のアイデア、特性を活かした取組」や「市民参加・市民力強化に資する取組」の先駆性、モデル性ととともに、その取組の実施による成果を評価する。

区分	基 準
5	全国に先駆けたモデルとなる「地域のアイデア、特性を活かした取組」や「市民参加・市民力強化に資する取組」を実施し、大きな成果を創出した。
4	「地域のアイデア、特性を活かした取組」や「市民参加・市民力強化に資する取組」を実施し、大きな成果を創出した。
3	「地域のアイデア、特性を活かした取組」や「市民参加・市民力強化に資する取組」を実施し、一定の成果を創出した。
2	「地域のアイデア、特性を活かした取組」や「市民参加・市民力強化に資する取組」を実施又は検討し、次年度以降の成果創出に目途がついた。
1	「地域のアイデア、特性を活かした取組」や「市民参加・市民力強化に資する取組」を実施又は検討していない。

※ 地域のアイデアとは、行政による発案に限らず、当該都市で生活又は活動する市民、企業等の発案も含む。

※ 地域の特性とは、地理的条件（大都市、中規模都市、農山村地域、臨海地域、積雪地域、再開発地域等）、コアコンピタンス（技術、食料、森林、子ども等）等を言う。

※ 市民参加とは、取組の主体が行政や企業等だけでなく、市民や幅広い関係者を巻き込むこと等を言う。

※ 市民力強化とは、市民が自主的・自発的に低炭素都市づくりに取り組もうとする意欲や、その取組に必要な知識を高めること等を言う。

### 【E：取組の普及・展開】

各都市の取組を地域内外に普及・展開（他団体との連携も含む。）した成果を評価する。

区分	基 準
5	全国に先駆けたモデルとなる当該都市の取組を地域内外に普及・展開し、大きな成果を創出した。
4	当該都市の取組を地域内外に普及・展開し、大きな成果を創出した。
3	当該都市の取組を地域内外に普及・展開し、一定の成果を創出した。
2	当該都市の取組を地域内外に普及・展開又は検討し、次年度以降の成果創出に目途がついた。
1	当該都市の取組を地域内外に普及・展開していない。

※ 当該都市の特定地区で実証した成果を他の特定地域に普及・展開したのも成果に含む。

※ 成果として、温室効果ガスの削減又は吸収量の増加のほかに、市民の環境に対する意識の向上、当該取組への参加状況等があげられる。